

戸塚峰樹とゆかいな仲間たち

第45期一同

昭和62年11月、全国大会予選に敗れ44期の先輩たちが引退した時点で、僕達45期は部員5人とマネージャー1人の6人しか残っていませんでした。46期の人数が多かった為に試合はできたのですが、たった6人でチームをうまくまとめることができるのか、44期11人が抜けた穴をどうやって埋めるのか、試合経験の少ない後輩達をどのように育て上げるのかなど、今思い返しても、きりがなくらい多くの不安を抱きかかえながら、僕らは3年生という学年を迎えました。

もちろん、そんな不安だけではありません。一つの僕らを奮起させた忘れられない出来事がありました。44期11人、46期18人、これは僕らが2年生の時の部員数です。それはそんな部員数から、あるOBが僕らを前にして言った言葉です。

「おまえらは、44期と46期の繋ぎなんだから46期をちゃんと育てろよ」

今思えば、僕らは考え過ぎていたのかもしれませんが。しかし当時の僕らはその「繋ぎ」という言葉が悔しく忘れることができず、3年生になった時「僕らは繋ぎだけでは終わらない」という反発心を持ちがんばっていました。そんな僕らではありましたが、最上級生としてのラグビー生活が始まり、まず恒例の主将の任命がありました。

主将・フッカーの戸塚峰樹、副将・BKリーダーでスクラムハーフの古橋輝道、FWリーダーでNo.8の藤田透、マネージャーに小泉博子という体制が決まりました。そして当時監督には35期の石瀬徹先輩が私達の指導を行っ

ていて石瀬監督が就任したのは、僕らが1年生の時であった為、僕達は3年間を通しての指導をした最初の教え子でありました。

そのような体制の中、学校での練習は火・水・木・土曜の放課後、石瀬監督が指導に来るのが毎日の朝練と週に1~2日放課後ということでしたので、石瀬監督がいない時は主将の戸塚を中心に練習内容を決めていました。少ない人数で効率良く物事を運ぶ為に全体の練習を戸塚が決め、FWの練習はFWリーダーの藤田を中心にフランカーの小林一郎、ロックの堀和彦の3人で決め、BKの練習はBKリーダーの古橋が決めていました。

このような人数であった為、その分僕らはまとまりのある3年生であったと思います。

また思い出になっている練習を一つ上げると朝練のスリークッションを思い出します。朝、体がまだ眠っている中、僕らはスリークッションを500回毎朝行っていました。今思えばよくやったと思います。当時も最初の頃はまともに500回できる者などほとんどいなかったのですが、毎朝続けているうちに夏合宿を迎える頃には全員ができるようになっていました。合宿までの間、僕らは基礎的なプレーを中心に練習を行い、チーム作りに努力していましたが44期の穴は予想以上に大きく、それまで何度か練習試合を行っていたのですが1度も勝てる事無く合宿を迎えてしまいました。

昭和63年7月29日~8月2日の間、僕らは山梨県南都留郡山中湖平野にある「ニュー福寿荘」に於いて合宿

（ 第 45 期
同期生からのことば ）

を行いました。1年、2年で迎える合宿とは嫌で嫌ではないものですが、3年で迎える合宿というのはもちろん嫌でしたが、最後ということもあり、その嫌な気持ちも少しは和らいで合宿を迎えていたと思います。又、3年としてチームをまとめようという責任感からのプレッシャーをどう跳ねのけようかという気持ちが強く、最終日を終えた時の感激は今でも忘れることがありません。

そんな辛い合宿も終わると、すぐ秋の公式戦が始まります。僕らの最後の公式戦は10月2日10時、都立三鷹高校に於いて行われました。結果はというと惜しくも初戦敗退。試合後、僕らは負けた悔しさと引退してしまう寂しさに涙を流し石瀬監督の元に集まって行きました。しかし、敗戦までの間が、僕達の財産で素晴らしい思い出です。まだまだ他にも多くの事がありましたが、このような思い出を作ってくれた千歳高校ラグビー部への感謝の気持ちをもって、最後の言葉とさせていただきます。

ラグビー部創設五十周年、本当におめでとうございます。

千歳ラグビー部での三年間は、自分の大切な思い出になっています。お世話になった諸先輩方の事は、忘れておりません。 戸塚峰樹

ラグビー部創設五十周年、おめでとうございます。千歳高校で学んだラグビー経験が、今の私を動かしてくれています。 古橋輝道

最後の試合が終わった後、何をしに学校に行くのかわからなかった。何だかんだ言いながら、ラグビーが好きだったと思う。 藤田透

一、二年の頃は練習が嫌だった自分も、すっかりラグビーにはまり、今だにクラブチームでラグビーを続けています。 小林一郎

みんなから「お前は、ラグビーやるのだけは、やめておけ」といわれたはや十年。今だにラグビーをやっています。 堀和彦

十五歳でラグビーに惚れて、たった三年間でしたが、マネージャーとして携わる事が出来て、皆さんに出会えてよかったです。

小泉博子